

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0792020018		
法人名	(株)あいの里		
事業所名	川俣町かえでの森 グループホーム		
所在地	福島県伊達郡川俣町八反田3-2		
自己評価作成日	平成24年10月27日	評価結果市町村受理日	平成25年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年12月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

人生の終焉を自宅ではなく、グループホームで送ることを選択することになった人に、認知症の症状が悪くなくても、それまでの家族や地域の人、知人、友人の素敵な関係が途絶えることなく続けていけるように、またそれまで行ってきた仕事(機織、農作業、家事など)が、少しでもやることで安心できる人には、場所や機会を作り、一人一人がそれまでの関係が途絶えることがないように、そして一人ひとりが役割を持って、最後まで安心して、生き生きと共同で生活し続けることを支援すること。  
 アピールしたい点は、老健施設から、自宅近くの当グループに入居したことで、高齢の夫が、毎日訪問してくれて夫婦の微笑ましい絆を見せていただいたり、時々妻の傍にお泊りしたり、地域の慣習の盆踊り大会で盆踊りを踊ったり、お祭りに行ったり地域の一人として普通に参加していること

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1. 利用者の馴染みの関係が継続できるよう地域交流に積極的に取り組んでいる。事業所では町内会に加入しており、地域の行事(盆踊り、神社祭礼、鼓笛パレード、コスキンパレード等)に利用者も参加し旧知の友と親交を深めたり、事業所に地元小学校のボランティア実習を受け入れる等、双方向での交流に取り組んでいる。  
 2. 職員全員が利用者の気持ちに寄り添い、傾聴しながら支援しており、利用者はゆったりと安心して生活している。また、職員が明るく、笑顔で関わっており事業所全体が明るい雰囲気である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作るときは、アンケートをとって職員会議で決めた、そして玄関に理念を掲示し、職員への浸透を図っている	理念は地域密着型サービスの意義を踏まえ、認知症高齢者の立場に立って管理者、職員が一体となって作り上げた。管理者、職員はケア会議等を通し共有しながら、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミだしを一緒にやったり、買い物に出かけて地域の人にあたり、町の行事等に参加している	地域の一員として町内会に加入し、盆踊り大会、神社の祭礼や消防団の出初め式等に参加している。また、小学生のボランティア実習を受け入れる等双方向の交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が相談に来られた時などは、解り易くアドバイスしたり 職員に相談があったときは受けた職員が随時説明している、状況により見学なども勧めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	避難経路や2次避難場所など地区消防団から説明があったり、職員不足の相談をしたときは、紹介してもらったりして、パートの看護師に働いてもらえるようになった	運営推進会議は定期的開催されている。会議では事業所行事、利用者の状況、事故状況等を詳しく報告し、委員からは質問や意見が出されており、事業所のサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際市町村担当者にも参加していただき情報の交換を行ってます。また管理者が状況をお知らせに行ったりして役場や地域包括センターに行っている	運営推進会議には町担当者も参加していることから、会議を通して事業所の取組内容等が伝えられている。また町役場が近くにあることから直接訪問し状況報告する等協力関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがある。職員は研修へ参加し、研修を受けた職員が会議で報告し、勉強会をしている	身体拘束及び虐待防止等の外部研修会に参加した職員は、職場内伝達研修を実施し、職員間で情報共有しながら実践に努めている。また、玄関の施錠を含めて拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束および虐待についてのマニュアルがあり、職員は研修に参加し、職員会議で報告し、勉強会を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加しているが、必要性のある利用者がいないため、まだ職員間での話し合い等はされていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書に添って説明し、分からないことがないか聞いて勧めている。今回の法改正により料金の変更があったときは、文書と電話等で説明し、承諾書もらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が面会に来られた際、職員から話かけをして意見要望等をお聞きしている、お話で出たことは要望書に記録し、職員会議で話し合っている	家族面会時に日頃の利用者の様子を詳しく伝え、家族から意見や要望を聞き取っている。把握した意見等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度取り締まり役、統括、各管理者の会議がある、その会議には各ホームの状況を報告相談している。また些細な意見でも出せるように「つぶやき」の用紙を作り、まとめて全体会議に報告している	管理者は日常業務の中で職員の意見等聞き取っており、職員会議等でも職員の意見や提案が出されている。「つぶやき」シートで、職員の些細な意見・気づき・要望等を把握し、全体会議で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回以上の賞与がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に年間目標を提出させ、一人ひとりが向上心を持って働けるようにしている。また外部研修には全員が参加するように計らい、外部との交流が出来るようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の他施設への催しに利用者様と一緒に参加してます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに早く慣れていただくように、本人の希望や不安などを、本人と家族等から聞いて、職員間で情報交換しながら、早めに対応するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームのことを知ってもらえるように説明したり、離れてしまうことへの不安や心配を聞くようにして、いつでも話を聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病気の心配やふらつきがあって歩行の不安が見られるときは直ぐ家族に連絡、相談して、受診するようしたり、杖や歩行器を購入してもらっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理が出来る人に、キッチンで野菜を切ってもらったり、買い物に行って野菜など食材を選んでもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が受診している人や、お誕生会には家族が参加できるように、家族の都合に合わせている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人にはいつでも面会できることを説明している。地区のお祭りや催しもの等出掛け馴染みの知人や友人と過ごしている	事業所周囲の神社、保育所、小学校、商店、理美容院、役場、医療施設等は利用者の馴染みの環境である。散歩、買出し、祭りなどを通し馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様と共に過ごせる様座る場所を考慮したり、行事や買い物など外出などで、一緒に過ごせるように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている場合は、職員が面会に行ったり、家族より相談された事は管理者等に報告している。退去された後、夫が本人の面影があるからと来所されるので、穏やかに過ごして行ってもらえるように気配りしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の状況を家族や関係者からお伺いし、不安のないように職員間で話しあいをしている。困難なことは、出来ることと出来ないことを家族にお話している	日常的な関わりの中で利用者の思いや意向を把握している。意思疎通が困難な場合は、家族からも情報を得て、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に本人、家族にそれ迄の生活の様子などをお聞きしている、入居後の生活の様子は生活記録用紙に記録し、職員は読んで状態を把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録シートを通しスタッフ全員が利用者様の状態を把握している。又変わった事があれば申し送りや連絡ノートを活用している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各々担当を決め担当者を中心に進め、又スタッフ一人一人も話し合っている。現在行っていないサービスがあれば終了変更の見直しを行う	利用者・家族の思い、利用者の身体状況の変化、職員の気づき、モニタリング結果等をもとに介護計画を作成している。しかし、介護計画に沿った支援内容の記録等が十分ではない。	介護計画見直し時のモニタリングでは実践状況が実施記録からだけではなく、職員の記憶等にも基づき確認している。実施ごとにケース記録に簡単に記入できるような様式の見直しをされたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ会議で利用者様一人一人について検討話し合いを行っている。その都度状態に変化ある時は変更する		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が自宅に帰りたいといわれたときは家族に相談し、一緒に自宅に行き過ぎてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会や文化祭の参加ご家族様や地域の方々への参加のお願いや消防署・消防団との避難訓練を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの係りつけ医を継続し受診している。受診時は医師や看護師にいろいろ相談してアドバイスをもらっている。インフルエンザの予防接種は医院から出向いて接種してもらった	かかりつけ医の受診は、職員や家族が同行して行われている。身体状況に変化があるときは、家族にも同行を依頼している。職員同行時の通院結果は電話や手紙等で家族に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師は週3回なので、それまでの状態など報告し、指示をもらったり、アドバイスをしてもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、家族や看護師や相談員と話すようにし、症状の把握に努め、退院後も安心して生活できるようにしている。退院後のことなど医療相談員から相談があったときは応じている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族から緊急時などの意向は聞いているが、まだ看取りを意識した本人、家族の意向を聞くようになっていない	医療連携体制加算は取っていないが、必要に応じて利用者・家族へ事業所の重度化に対する指針の説明を行うこととしている。今後は、利用者・家族の希望に沿って、医師・家族等と話し合いを行いながら、看取りを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応マニュアルを作成いつでも読めるように掲示している。普通救急救命の講習を全員が受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している、1回は夜間帯を想定して行っている。伊達地方消防南分署の立会いと地区消防団の協力を得ている。職員間では安全対策班を立ち上げ、随時訓練を行うことにしている	年に2回避難訓練を行っており、夜間想定は1回のみである。訓練は消防署立ち会いで行ったり、地元の消防団や地域の人にも参加してもらい実施している。備蓄も整備されている。	全職員が夜間帯の火災でも対応できるよう夜間想定訓練を数多く実施して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報やプライバシーに関してのマニュアルを掲示し、重要なことを職員に意識付けしている。またパーソンセンタードケアの勉強会を行い人格を尊重するケアの必要性を勉強している	利用者の居室へ入る際は必ずノックを行い、言葉遣いや声掛け等は一人ひとりの状況に合わせて方言を使いながら対応している。また、利用者を尊重した対応が出来るよう勉強会を行いながら、取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしますか？」といつも問いかけするように本人の声を聞くように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出などの希望に柔軟に対応している。入浴も本人の希望に添っている。就寝時間もテレビをみたりして好きな時に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前から好んで着ていたものや化粧品などは持参してもらっている。外出時は衣服選びや鏡を見たりして楽しめるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一緒に買い物に行き、一緒に食材を選んだり、キッチンで野菜を切ったりし、味付けもやっている	買い物、調理、配膳、下膳、後片付け等利用者の出来ることは手伝ってもらい一緒に行っている。利用者の希望を献立に取り入れ、食事が楽しめるよう職員も一緒にテーブルを囲み、会話しながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録シートに、毎日食事量、水分量、排泄量を記入して職員は把握するようにしている。状態に応じておかゆにしたり、水分量や塩分量の指示があった場合にはそれなりにやっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけを行っている、ご自身で出来ない場合はガーゼなどで口腔内を拭くようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンや習慣をスタッフで意見交換し、共有して、トイレの声掛けや排泄介助を行っている	排泄状況を記録し、排泄パターンを把握している。排泄サインに合わせてさりげなく声かけし、トイレで排泄できるよう支援している。便秘予防に水分や繊維物の摂取に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂るように配慮したり声掛けを行っている。食事では、繊維物を摂るように工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めていない。入浴時間を聞いたりして入りたいときに入浴できる状況になっているが、入浴を好まない人が多く、どのタイミングで入浴してもらうか職員間で相談しあっている	利用者一人ひとりの希望を聞きながら、入浴支援を行っている。また、柚子湯、菖蒲湯等で季節感を味わったり、入浴剤で気分転換を図っている。拒否する場合、声掛け等を工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・入床の時間は決めていない。個々の状態に合わせているが、自分で出来ない人は一般的な時間になっている。昼寝はコタツやソファなどで、思い思いの場所で取っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋の説明書をいつでも読めるようにファイルに閉じてあり、ユニット会議で読み合わせをして確認しあった。薬の変更等あった場合ユニット会議にて再度確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性男性共に、洗濯・料理・配膳・下膳といった家事を通して役割を持って頂いている。又 歌が好きな人が集まり歌を唄うなど楽しまれている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族、関係者と一緒のバス旅行を計画したが、参加者が集まらず出来なかった、利用者の希望の菊人形を観に出かけるようにした。日常的に買い物やドライブへ出かけている	お天気を見ながら事業所周辺の散歩をしたり、近くのお店での買い物ができるよう支援を行っている。また、菊人形や紫陽花見学等、季節の行事を取り入れながら外出支援をしている。家族の協力で外食や温泉に出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけるときは、各自お小遣いを持っていくようにし、自分で支払いしている。自分で持っていなくてもお金の心配をしている人には、いつも安心できるように説明している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お金などの心配で家族に電話する人には、自分からお話するようにして、職員が事情を家族に説明している。家族から電話があったときは、本人とお話してもらうようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行い、利用者様の生活しやすい環境を心がけている。季節ごとに飾りつけをし、利用者様に季節感を感じて頂くようにしている	居間にはソファ、テーブルと椅子、和室には炬燵があり、一人ひとりが好きな場所で寛いでいる。また、季節ごとの花や利用者と一緒に作った掲示物を飾り、季節感が感じられるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士でコタツとテーブルとソファーに分かれているが、安心して過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	以前から使用されていた家具や衣装などを持ってきていただいている。タンスの持ち込みは居室に戻ると中を開けて確かめるなどして安心している様子がある。	利用者の居室にはエアコンが設置されており室温管理がされている。また、入居時には馴染みのベッド、整理ダンス、ラジオ、テレビ、座イス、愛着のある洋服、家族の写真等持ち込んでもらい、安心して暮らせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台が居室の前にあり、自分で洗濯して、廊下の物干しに自分で干して、乾きを確認して自分でしまっている		